

金栄文氏、安鳳根氏の報告をめぐる討議

大邱地域に散在している観光資源を体系的に弘報する為の、インターネット観光情報システムを開発した。HTMLとJAVASCRIPTを利用して開発し、各観光地に対しイメージ情報とテキスト情報を効果的に提供しようとして努力している。

このような研究の目的を効果的に達成する為に、先ず、現在大邱地域の観光情報を提供している、インターネット・ウェブサイトに對する調査と分析を行った。特に、嶺南大学校ホームページ、大邱広域市庁のホームページ、そして大邱ネットの観光情報を調査分析し、既存の観光情報システムの問題点をも提示している。そして、開発方法ならびに範囲として、資料収集の範囲・期間・方法ならびに開発道具と方法について論じている。なお、資料収集の為に、大邱を次ぎのような5圏域に分けている。

- (1)八公山／農村圏、(2)頭流／城西圏、(3)琵琶山／花園圏、(4)アップサン（前山）／嘉昌圏、(5)都心圏

なお、次ぎのような7つの観光ルートを設定して、具体的に観光情報を収集している。

- (1)宗教観光ルート、(2)歴史・文化観光ルート、(3)スポーツ観光ルート、(4)産業観光ルート、(5)慰楽／休養観光ルート、(6)山岳探訪観光ルート、(7)ショッピング／食道楽観光ルート

また、観光客が必要とする諸般の付帯情報を、次のように分類して収集している。

- (1)観光ホテル、(2)観光旅行社、(3)レンタカー、(4)交通情報（市外バス、高速バス、列車、飛行機）、(5)食堂（観光劇場食堂、外国人専用遊興飲食店、専用観光食堂、一般観光食堂）

一方、これらの資料は1997年2月より9月までの間に収集された。収集の為に、大邱市ならびにその傘下にある7つの区庁の観光課および関連部署を直接訪問している。東大邱駅をはじめとして、観光案内所、旅行社等をも直接訪問している。そして、なお不足な資料は観光地を

直接訪問し写真を撮り、テキスト情報を収集した。即ち、この研究は一次的資料と二次的資料を、すべて活用している。このように、大邱地域観光情報システムを開発した内容と範囲を具体的に述べ、インターネットによる画面を示している。そして、結びとして要約、研究の限界、今後の研究方向等を述べている。

この研究により開発された内容は、既存の内容に比べて、次のような長所がある。(1)収集された情報の範囲と量が、既存のシステムに比べてたいへん広くかつ多い。(2)既存のシステムが、ただ写真（イメージ）の説明にとどまっているのに対して、①尋ねて行く方法、②電話番号、③料金および観光時間等をも提供している。(3)観光客が快適に観光しうよう、ホテル・旅行社・レンタカー・交通・食堂の情報をくわしく提供している。

このような努力にも拘わらず、この研究には、次のような限界がありこれは今後の研究課題となるであろう。(1)この研究においては、常用データベースを使用していない。従って検索機能を提供することができない。(2)この開発システムでは、テキストならびにイメージ情報を提供しているが、画像ならびに音声情報を提供するに至っていない。(3)ハングル情報の提供に止まり、英文・日本語文による情報提供ができていない。

このような報告について、次のような討議が行われた。

問 観光情報を開発してインターネットにより提供してしまえば、観光客は減るのではないだろうか。しいてインターネットが必要であろうか。

答 インターネットにより、国内外の観光客に対し広く知らせることができる。また、小・中・高等学校および観光従業員教育用としても活用できるであろう。

問 現在は、ハングルによる情報のみ開発さ

れているが、将来の見透しはどうだろうか。

自治団体と学界の緊密な協力が必要である。

答 今後は、英語と日本語による情報も是非
開発されなければならない。これには、大邱市

(姜判国*)

(訳 金鏞淇**)

* 啓明大産業経営研究所研究員

** 啓明大産業経営研究所特別所員，嶺南大学校名誉教授